





-  料理研究家 コウケンテツさんがご講演！
-  今後、市へ取り組んでもらいたいこと
-  皆さんの男女共同参画意識は？
-  地域の食堂をレポート

狛江市男女共同参画推進フォーラム開催！
コウケンテツさんの
「ごはんのでつくる
家族の絆」



「パパ、ママ、すべての方必見
コウケンテツさんの『ごはんで作る家族の絆』」

狛江市男女共同参画推進フォーラム（講演会）
平成31年1月20日（日）

料理研究家 コウケンテツさんにお話をいただきました！（来場者数：130名）



コウケンテツさんは、8歳、6歳、1歳の3人のお子さんを育てながら、料理研究家として活動しています。WEBサイトや料理本などに家庭料理のレシピを載せるので、ほぼ毎日家で撮影を行うそうです。そのため、マネージャーである奥様とは、仕事と家事の両立方法について、きっちり話し合ってきました。奥様が洗い物をしていたら自分はお風呂を洗う、そういった50/50の役割分担が完璧にできているそうです。役割分担するにあたっては、得意ではないものを無理に担当する必要はないとのこと。できる人ができることをすることが重要とお話でした。

料理研究家になりたかった一番の理由は、子どもと一緒にご飯を作りたいからというコウケンテツさん。まだ駆け出しの頃に、初めて幼稚園で子どもと一緒に料理をつくった際、その工程によって子どもの「創造性」「チャレンジ精神」「責任感」が育まれることに気づきました。家庭で子どもと料理をつくるポイントは、①1料理1工程、②終わりをあらかじめ伝える、③助かったよ♪の一言。集中力の短い子どもが楽しく料理を手伝い、その喜びによって次もやってみよう、他のことにもチャレンジしたいと思ってもらえることが大事とのことでした。

ある時、海外のリアルな家庭料理を知ろうというテレビ番組の撮影の中で、フランスのパリで出会ったマダムという言葉に驚いたそうです。彼女は、子ども3人を育て上げながらパン屋のオーナーもしていて、朝ごはんはフランスパンにジャムを塗っただけ、夜ごはんはスーパーで買ったタルタルステーキをお皿に移すだけでした。栄養面は大丈夫なの？との問いに、マダムは「忙しいのに無理して家のことを一生懸命やると、私のサンシャインが輝かないでしょ。私のサンシャインが輝くから家族が幸せになるのよ」と言われたそうです。そんな経験から、コウケンテツさんは『日本の文化も素晴らしいけれど、良いものはうまく吸収していい。日本の家事はハードルが高すぎるので、何を食べるかではなく、どうやってみんなで楽しく食べるかを大事にしてほしい。』とお話しされ、参加者の皆さんは大変共感していました。



参加者より！ <講演を聴いて、家庭における男女共同参画について感じたこと>

「家庭のサンシャイン
でいたいと思います」

「できることを
できる人がやる」

「子育て・家事を
がんばりすぎない」

「相手に感謝、
相手をみとめる」

「不満をためずに
何でも50/50」

「気持ちがおもしろ
なりました！」

- ◆素晴らしい講演で、自分の価値観を広げられた。
- ◆内容が本当に良く、2時間があっという間だった。
- ◆子どもを連れて講演を聴けたのは良かったと思う。
- ◆お母さんに連れられて参加したお父さんから、自分が聞かなくて聞けたとの感想をいただいた。
- ◆参加した妻も、非常に肩の力が抜けたと言っていた。
- ◆好感度の高い講師だった。この集客が、男女共同参画への関心に繋がるのではと感じた。
- ◆参加者には是非、来年は友人を連れて参加してもらいたい。 <フォーラムの感想-委員会より->




コウケンテツさん、
ありがとうございました！


市への提言を行いました！

平成29年5月8日に市長から委員会に対して、以下の諮問がありました。

- 「下記事項について貴委員会の意見を求めます。
(1) 男女共同参画に係る計画の推進に関すること
(2) 男女共同参画社会の実現に関すること」

諮問とは 
有識者または一定機関に、意見を求めること

それに対して、平成31年3月22日に、市長へ委員会から提言を答申しました。

提言とは 
(第三者が)考えや意見を出すこと

「誰もが認め合える大切さ
みんなで取り組む男女共同参画づくり」



【提言1】男女共同参画に対する意識向上に向けた体制の強化

◎具体的提言

- ・組織のトップである市長のリーダーシップで、市内のワーク・ライフ・バランスの推進を図る。
- ・市内における男女共同参画に関する意識や認識度を確認するため、簡易アンケートなどを実施し、気づきと意識向上へと繋げる。
- ・男女共同参画の様々な分野における他自治体の取組みを研究し、市内で情報共有するとともに、狛江ならではの男女共同参画づくりに向けた素材とする。
- ・得られた調査研究等の結果を次期計画に活かす。
- ・他部署との連携による相乗効果について、次期計画の策定において検討する。



【提言2】市の情報発信力の強化

◎具体的提言

- ・デジタルサイネージやSNSなど、ターゲットに合わせた効果的な提供で、様々な情報提供媒体を活用した情報発信に努める。
- ・男女共同参画とは多様な価値観を認め合える社会づくりであるという視点から、幅広く市民へ伝えられるよう発信し続ける。



【提言3】推進計画の改定に向けた評価方法の見直し

◎具体的提言

- ・計画の改定にあたっては、5年後に到達するべき目標を明確に設定し、毎年度の進捗状況の確認とフィードバックがきちんとされるような評価方法となるよう見直しを行う。
- ・その際、現状の評価区分である「現状維持」「進んだ」という評価方法が的確であるかどうかもあわせて検討する。

－ 狛江市男女共同参画推進委員会とは－

内閣府では「男女共同参画社会基本法」に基づき、男女共同参画社会づくりの施策を総合的かつ計画的に推進しています。「狛江市男女共同参画推進委員会」は、この法律に基づき、内閣府の施策を推進し、狛江市の男女共同参画社会の形成を促進するための委員会です。2年間の任期で、最終年度に提言を出しています。狛江の暮らしやすいまちづくりのため、会議で意見を交わしたり、皆で協力してフォーラム等を実施したり、日々奮闘しています。

たくさんの方の考えがわかりました。

パネル展示とシールアンケートを実施

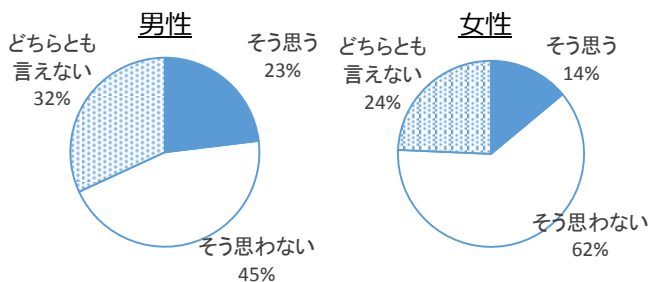


男女共同参画パネル展

平成30年6月18日～29日に、市役所ロビーにてパネル展を開催。同時にシールアンケートも市役所ロビーの他様々な場所でも実施し、たくさんの方にご協力いただきました。

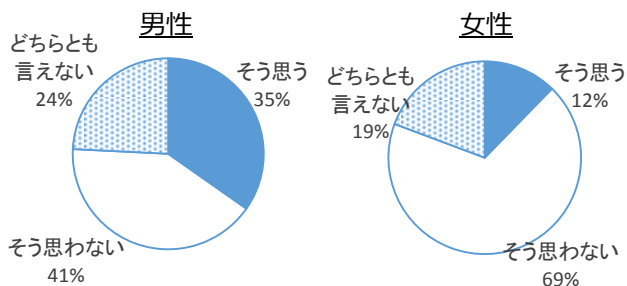
総回答者数：337人

『「赤ちゃん・ふらっと」には、男性は入らない方が良いと思う。』

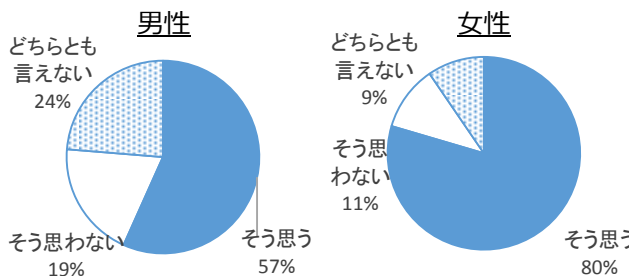


※赤ちゃん・ふらっと…東京都が公共施設等へ整備を進める授乳やおむつ替え等ができるスペースの愛称

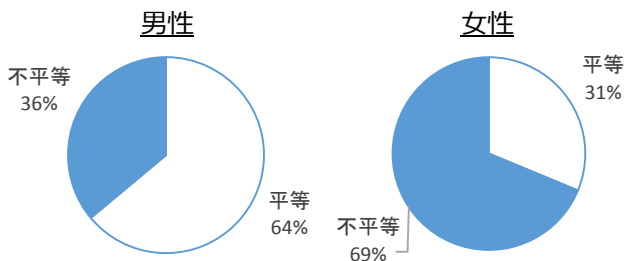
『小さい男の子がピンクのかばんを選んだら、違う色を薦めると思う。』



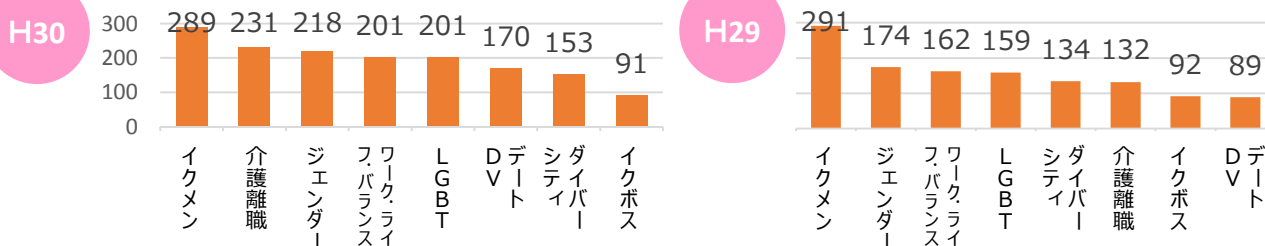
『育児や介護のための時短勤務や育児・介護休暇は、女性の方がとりやすいと思う。』



『家庭について、男女平等であると感じますか？それとも不平等であると感じますか？』

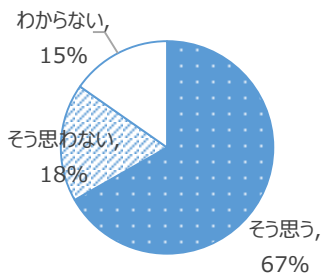


『男女共同参画に関するキーワード、あなたはいくつ知っていますか？』

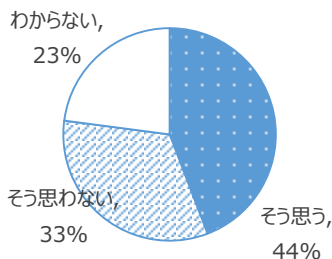


狛江高校3年生へアンケートを実施

『子育て中の女性は、残業したり、夜にでかけたりしない方が良いと思う。』



『「一家の大黒柱」は、やはり男性だと思う。』



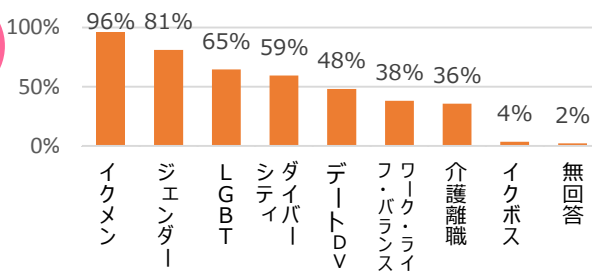
狛江高校アンケート調査

平成30年6月21日～29日に、狛江高校3年生の皆さんに男女共同参画に関するアンケートを実施。その結果を受けて、「男女共同参画を知ろう！」という啓発ポスターを校内に掲示していただきました。

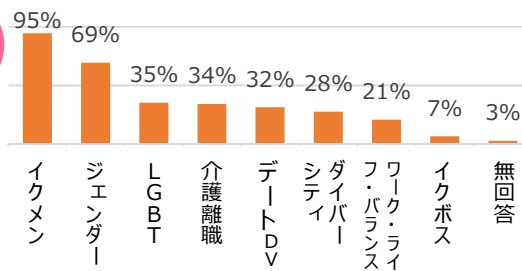
総回答者数：311人

『男女共同参画に関するキーワード、あなたはいつ知っていますか？』

H30



H29



男女共同参画を知ろう！

平成30年10月
 狛江市若葉児童発達センター
 03-3430-1164
 kyodai@city.komae.lg.jp

6月に実施した「男女共同参画に関するアンケート」には、狛江高校3年生 総計311名の皆さんが回答していただきました。ご協力ありがとうございました！
 その結果から、ぜひ、狛江高校の皆さんにお伝えしたい内容もご紹介させていただきます。

知ってもらいたいキーワード！

キーワード、いつ知っていますか？
 重要と知られていないキーワードは「イクボス」です。ご自身の皆さんに知ってもらいたいキーワードにチェックをお願いします。

1 イクボス ... 職場で一級職の下でやりがいやワーク・ライフ・バランスを高めながら、自分も仕事も生活も楽しんでいる人です。

2 介護離職 ... 介護の必要性に応じて、仕事も退職せざるを得ない状況になります。社会的な問題です。

3 ワーク・ライフ・バランス ... やりがいを持って働くが、家庭や地域生活でも人生の各段階に応じて多様な生き方が選択できること。

*** LGBT** ... 性的少数者を指して指す言葉。

言葉 どんな夫婦に？

「あなたが将来家庭を持つとしたら、どのような考えになりますか？という質問には、共働きを希望している、子どもを産んで一緒に仕事をやりたいという考えが、多いと考えられています。

「女性よりも男性に比べて生活しやすい社会」の構築には、両が必要で、両者が、こんな意見が！

古くからの固定概念をなくす 社会をもう一度見直す 若者から変えていこう！

第1子以降の出生に仕事も辞めた女性は多いですが、早くに仕事を辞めてしまったのは諦めざるを得ない人もいます。でも、子育ては家事も休まず、高齢者介護、フレックスタイム、在宅勤務、短期勤務制など、活用しやすくなることで、この問題を解決する方法を模索することもできます。

お父さんの役割は、お母さんが、お父さん、お母さん、両方とも必要で、それぞれ役割を担うことも考えてみてください。

精神的・経済的な暴力、行動の制限も「デートDV」!

『あなたは、「女性にとっても男性にとっても生きやすい社会」にするためには、どのようなことが必要だと思いますか。』

- ☺ 「男性らしさ、女性らしさは大切であり必要だと思うが、男性だから～、女性だから～という考えは捨てるべきだと思う。」
- ☺ 「自分の考え方が一般常識だと思えない。」
- ☺ 「社会全体が他人事だと思わず、現状の問題に取り組むことが必要。」

結果が気になる方は、
 市ホームページをご覧ください！
<http://www.city.komae.tokyo.jp/>
 ホーム > 健康・福祉 > 男女共同参画

狛江市 男女共同参画

気まぐれ八百屋だんだん（大田区東矢口1-17-9）を訪問

お話を伺ったのは・・・ 店主 近藤博子さん

男女共同参画推進委員会として2回目の視察は、「子ども食堂」の名付け親である近藤さんにお話しを伺いました。元々は八百屋からスタートされ、その後買物に来た先生から困っている子どもの相談を受けて、皆でご飯が食べられないかという思いから始められた活動です。ご自身が料理のお裾分けなどのご近所づきあいをしてきた経験から、困っている子どもを見て見ぬふりはできなかったという近藤さんのお話、昔ながらの地域での支えあいの大切さを改めて実感しました。



子ども食堂は子どものための食堂ではない

子どもだけで行ける親公認の食事の場所がほとんどない中、ここは子どもにとって素敵な場所となっている。一方で、親にとってもリフレッシュできる大事な場所。利用する家庭には、一人親や共働きで両親帰りが遅い家はもちろんのこと、子ども食堂の日だから行っておいでという家もある。たまには、お母さんが料理しない日も、お父さんの帰りが遅い家庭は賑やかにご飯を食べる日もあっていい。お母さんが笑顔でいられるのならば、どんな理由で来てもいいと思う。



100人いたら100通りの来る理由がある

「子ども食堂」とは生活に困った家庭の子どもが利用する場所であると定義づける人がいるが、困った時にだけ来なさいと言っても、困りごとは人それぞれではないか。100人来たら100人それぞれに来る理由があっていいと思う。



ここに来る子ども達は、誰でも『ありがとう』が自然に言える

ここでは子ども達にお手伝いをお願いしたりはしないが、やりたい子はお皿を運んでくれたり、以前通っていて今は高校生になった子達は手伝いに来てくれる。そんな環境のせいか、子ども達は自然と「ありがとう」が言えている。普通のことや普通でできていない大人が多い中、自然にそれを学ぶことができている。



弱い立場の存在は、いつまでも弱い立場？

子ども食堂をやっていて、弱い立場の人たちはいつも頭を下げて生きていかなければいけない社会だと気付いた。『お世話してあげてるんだ』という人が多い。感謝の気持ちを表すことはいいことだけれど、頭下げて地べたばかり見ていたらつまらないし、どんどん肯定感も失ってしまう。『空見ろよ』と言ってくれる大人を増やしたい。



- ◆近藤さんはとてもパワフル。食の大切さとともに、孤食を防ぎ皆で楽しく食べたいという思いを感じた。
- ◆悩みを打ち明けられる場、親がリフレッシュできる場を作りたいと思い、始められた点が良かった。
- ◆親を教育しないという割り切り方も良かった。
- ◆「空見ろよ」という言葉がとても心に染みた。
- ◆こういう方が世の中を支えていらっしゃるのだろう。
- ◆近藤さんは気負いすぎず自然体でやっている。昔来た子が高校生になって手伝いに来たりと、良い繋がりがあると感じた。 <視察の感想-委員会より->

ごはん+居場所 おかえり (狛江市中央公民館) を訪問

お話を伺ったのは・・・ 代表 宮川裕子さん



“つなガエル”と宮川さん

訪問の歯科医師として働きながら、子どもも高齢者も孤食にならないよう、訪れた人が「ただいまー」「おかえり！」と言える、地域に開かれた誰でも来られる食堂“共生食堂”を月1回実施しています。他にも、「子育て学習会」や「不登校を考える親の会」にも取り組んでおり、子育て中の親に寄り添っています。

★活動に協力していただけるボランティアも随時募集されています！是非一度、遊びに行ってみてください！

→おかえりホームページ



Q1. 活動をはじめられたきっかけは何ですか？

高知県に住んでいた頃、教育相談所のボランティアに携わっていました。東京に戻ってからは、認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやいにてホームレス支援の無料の歯科相談を行うことになり、無料配布のカレーを食べながら心を開いている方々を見て、食事があるから心の扉が開いたのだと感じ、食堂をやりたいと思いました。

Q2. どうやって運営されていますか？

子どもの高校時代のママ友と始めました。狛江市外の方もいらっしゃいます。ご協力いただく方には、夫婦も若者もいらっしゃいますので、男女混ざって運営をしています。



Q3. 男女で役割や考え方の違いは感じられますか？

全くありません。男性には重いものを運んでもらうくらいで、男女問わず料理もしています。ボランティアの子には、「男の子なのにお味噌汁作れるなんて偉いね」と言うと逆に怒られてしまいます。歯医者の世界も男女差別がなく、私自身はあまり感じたことがありません。ただ、企業へのお勤め経験がある方からは、社内で男女差別があったと聞きます。

Q4. 活動されている中で、どんな感想をいただいていますか？

一人暮らしの高齢者の方も多く来られるため、「野菜がたっぷり嬉しい」「自分ではこんなに作れないので嬉しい」といった声をいただきます。子育て中のお母さんは、何回か来た後に日ごろのもやもやを打ち明けてくれて、「話を聞いてもらえて嬉しい」と言っていました。

Q5. 今後どのような活動を目指していますか？

スタッフの人数が増やせれば、親と子どもを別々の場所で食べさせてあげて、どちらもここに来たら心が解放できるようにしたいと思っています。また、調理参加型や、学習支援と連携した取組みなども行いたいと考えています。

Q6. 食堂以外の活動についても教えてください。

半年に1回、神戸大学名誉教授の広木克行先生をアドバイザーにお招きし、子育て学習会を開催しています。また、不登校を考える親の会も開催しており、同じ悩みを持つ方同士で悩みを共有し、気持ちを楽にしてほしいと思っています。教育相談所に行くのはハードルが高いと言う方に、是非いらっしゃってほしいです。

Q7. 最後に一言お願いします。

子どもも大人も高齢の方も社会的に孤立することがないように活動していきたいと思います。1回失敗したら終わりと言われる世の中ですが、失敗しても助けてくれる人はいるし、一人で抱えこまなくていいんだよと伝えていきたいです。

◆参加者には高齢者や家族が多く、まさしく共生食堂だった。おかずは大皿で出され、食を介しながら楽しい会話をすることで心が開かれ、悩みも打ち明けられるのだと感じた。

◆不登校を考える親の会にも取り組まれており、幅広く人を見ているように思う。こういう方が地域で活躍してくださっているのは救いだと感じる。
＜取材の感想-委員会より＞



この日はちらし寿司。美味しかったです！

狛江市からのお知らせ

①男女共同参画推進委員会・②男女共同参画推進計画改定委員会の市民委員を募集します！

〔応募要件〕①②18歳以上の市内在住・在学・在勤者

〔開催予定〕①推進委員会：年4回程度 ②改定委員会：年5回程度

※ どちらも原則平日夜間・他に休日にフォーラム1回

詳細は、広報こまえ3月15日号・4月1日号をご覧ください！

女性のためのカウンセリング

「今の仕事がつらい」「だるい、やる気が出ない」など、何気ないお悩みをご相談いただけます。

〔日 時〕 毎月第2・4水曜日 午前9時～正午（お1人60分）

〔相談員〕 カウンセラー（女性）

カウンセリング・心の相談

〔日 時〕 毎月第1・3・5水曜日 午前9時～正午（お1人60分）

〔相談員〕 カウンセラー

〔場 所〕
市役所2階市民相談室

*ご予約は、
秘書広報室まで
☎03-3430-1149

男女共同参画に関するサイト

◇狛江市ホームページ
男女共同参画推進ページ
<https://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/44,0,557,html>



◇東京都生活文化局
男女平等参画
<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/danjo/>



◇TOKYO
ワーク・ライフ・バランス
<http://www.tokyo-danjo.jp/lwb/>



◇東京ウイメンズプラザ
<http://www1.tokyo-womens-plaza.metro.tokyo.jp/>



委員長よりごあいさつ



“共に支えあい楽しく生きる”

ある記事が目にとまりました。固定的な性別役割分担も「今は様々な夫婦の形が容認されており、一つの形にはめ込む時代ではない」とありました。

女性も男性もこうあるべきという考え方によって、働き方や考え方、生き方を制限することなく、自分らしく生きることができればと思っています。

本情報誌に関するご意見や男女共同参画に関するご意見等、下記連絡先までお寄せください。

発行・編集 狛江市男女共同参画推進委員会・狛江市 平成31年3月発行
狛江市 企画財政部 政策室 協働調整担当 〒201-8585 狛江市和泉本町1-1-5
TEL 03-3430-1164 FAX 03-3430-6870 E-mail kyodot@city.komae.lg.jp